

日本独文学会第72回総会
春季研究発表会

2018年5月26日(土)・27日(日)

第1日 午前10時より

第2日 午前10時より

会場 早稲田大学戸山キャンパス

☎162-8644 東京都新宿区戸山1-24-1

e-mail: tagung2018waseda@jgg.jp

参加費：1,500円(学生、常勤職のない会員は1,000円)

日本独文学会

☎170-0005 東京都豊島区南大塚3-34-6 南大塚エースビル603

Tel./Fax 03 - 5950 - 1147

メールフォーム：<http://www.jgg.jp/mailform/buero/>

プログラム

第1日 5月26日(土)

開会の挨拶 (10:00~10:05)

A会場

藤井 明彦

総会 (10:05~11:30)

A会場

- | | |
|------------------------|--------|
| 1. 会長挨拶 | 清野 智昭 |
| 2. 議長囑任 | |
| 3. 庶務報告 | 室井 禎之 |
| 4. 渉外委員会報告 | 浜崎 桂子 |
| 5. 会計報告 | 山下 仁 |
| 6. 編集委員会報告 | 川島 隆 |
| 7. 企画報告 | 宮田 眞治 |
| 8. 広報委員会報告 | 岡本 順治 |
| 9. データベース委員会報告 | 成田 節 |
| 10. 文化ゼミナール委員会報告 | 川島 建太郎 |
| 11. 語学ゼミナール委員会報告 | 宮下 博幸 |
| 12. 教授法ゼミナール委員会報告 | 太田 達也 |
| 13. ドイツ語教員養成・研修講座報告 | 太田 達也 |
| 14. 研究叢書報告 | 相澤 啓一 |
| 15. ドイツ語教育部会報告 | 新倉 真矢子 |
| 16. 支部報告 | |
| 17. アジアゲルマニスト会議実行委員会報告 | 室井 禎之 |

- 議事 1. 2017年度決算書および2018年度予算案について
2. 会則の改正について

3. 理事選出細則の改正について
 4. 社団法人の設立について
 5. 別冊の発行について
 6. 支部選出理事の嘱任について
 7. 監事の嘱任について
 8. その他
- 会員意見開陳

日本独文学会賞授賞式 (11:40~12:10)

A会場

ドイツ語学文学振興会賞授賞式・総会 (12:15~13:15)

A会場

招待講演 (13:20~14:20)

A会場

クリスティーネ・イヴァノビッチ氏 (ヴィーン大学教授)

Prof. Dr. Christine Ivanovic (Universität Wien)

Tierische Schläue, menschliche Biester: Wie Tiergeschichten Kulturtechniken
verhandeln. Antike Fabeln, mittelalterliche Epik, Märchen und moderne Erzählungen im
Vergleich.

ドイツ語教育部会総会・講演会

D会場

総会 (12:40~13:10)

招待講演 (13:20~14:20)

山崎 吉朗 (日本外国語教育推進機構 JACTFL 理事長)

日本の言語教育について現場から発信する

口頭発表：文学 I (14:30~17:45)

A 会場

司会：江口 大輔／前川 一貴

1. ヨーハン・ザロモ・ゼムラーの『旧約聖書』解釈と同時代への影響
土屋 京子
2. 『新エロイーズ』とシュトゥルム・ウント・ドラング — 1774 年における受容の一断面
今村 武
3. 詩人・ハイネ再考 — 『歌の本』と《詩人の恋》を手がかりに
野口 方子
4. 噂の変身 — クリストフ・ランスマイヤーの『最後の世界』における構成原理としての「ファーマ」
吉川 侑里
5. トーマス・ベルンハルト作品における女性像について — 『ウィトゲンシュタインの甥』を中心に
飯島 雄太郎

口頭発表：文学 II (14:30~17:05)

B 会場

司会：松永 美穂／Arne Klawitter

1. 日本の新興人形劇ファウストと独文学者
山口 遥子
2. 世界といかに闘争するか — 決断主義思潮圏におけるエルンスト・ユンガーの位置について
糸瀬 龍
3. Demenz und Gender. Roswitha Quadfliegs Roman *Neun Monate. Über das Sterben meiner Mutter*
Monika Leipelt-Tsai
4. Autofiktionale Texte und Narration zwischen Erinnerung, Gegenwart und Zukunft in der deutschsprachigen Gegenwartsliteratur: *Der Spaltkopf* und *Tauben fliegen auf* als Manifeste des Wandels
Agata Joanna Lagiewka

口頭発表：語学 (14:30~16:25)

C 会場

司会：石井 道子／室井 禎之

1. 18 世紀オーストリアにおける文章語の「標準化」 — 『ウィーン新聞』に基づく計量的研究
鯨岡 さつき

2. sein を完了助動詞に選択する動詞が取る対格名詞句の統語的位置

藤井 俊吾

3. ドイツ都市部に暮らすトルコ系移民の言語使用と言語意識

— アンケート調査から見た彼らのアイデンティティー

田中 翔太

口頭発表：ドイツ語教育（14:30～17:05）

D 会場

司会：岡山 具隆／星井 牧子

1. Form ohne Fokus – Sprachliche Qualität im inhaltsbasierten Anfängerunterricht

Olga Czyzak

2. 統合講座の新たな展開 — 〈第二文字学習者〉とは誰か

井上 百子

3. 日本人ドイツ語学習者における L1 ライティング能力と L2 ライティング能力
の関係性

山田 真実

4. ドイツ語発音における Kernmerkmale — コミュニケーションの観点から見た
身につけるべき発音の力

中川 純子・立川 睦美

口頭発表：文化・社会（14:30～17:05）

E 会場

司会：荻野 静男／小野寺 賢一

1. ゲオルギアードスの音楽論におけるシューベルト・リートの「言語 (Sprache)」
について

添田 久美子

2. 怪異に対する本能的畏怖についての現象学的ディスコース
— オットー、フロイト、ユクスキュルを中心に

渡邊 徳明

3. 現代ドイツ文化・社会とユネスコの無形文化遺産

金城ハウプトマン 朱美

4. 皮膚が意味するもの — 『ベルリン・アレクサンダー広場』とグロス、ディ
ックスの諸作品を手がかりに

勝山 紘子

ブース発表 I (14:00~15:30)
(ブース発表は途中での出入り自由です)

F 会場

Wortschatzlernen in Netzen - Interaktive Einführung in den datengeleiteten Grundwortschatz Deutsch für japanische Deutschlerner

岡村 三郎・原口 厚・Joachim Scharloth

ポスター発表 (13:00~14:30)
(ポスターは期間中を通じて掲出されています)

G 会場

Schwierigkeiten beim Einsatz sozialer Medien im japanischen Deutschunterricht für Anfänger

Axel Harting

ドイツ語教育部会
「大学ドイツ語入試問題検討委員会」展示・発表 (13:00~17:30)

H 会場

懇親会 (18:00~20:00)
会場 早稲田大学戸山キャンパスカフェテリア外
会費 3,000 円

第2日 5月27日(日)

シンポジウム I (10:00~13:00)

A会場

戦後ドイツにおけるナチズム的言説の克服と復活
**Überwindung und Wiederaufkommen des nationalsozialistischen Diskurses in
Deutschland nach dem Kriegsende**

司会：高田 博行、大宮 勘一郎

- | | |
|------------------------------|--------|
| 1. ドイツ語の「武装解除」はできるか？ | 田中 克彦 |
| 2. ナチズム克服の言説とその変容 | 初見 基 |
| 3. ドイツ再統一後における反ナチズム言説と全体主義理論 | 大宮 勘一郎 |
| 4. 今日の政治的言説におけるナチ語彙の「復活」 | 高田 博行 |

シンポジウム II (10:00~13:00)

B会場

さまざまな一年 — 近現代ドイツ文学における暦の詩学
Jahresarten. Zur Poetik des Kalenders in der modernen deutschen Literatur

司会：金 志成

- | | |
|---|--------|
| 1. 瞬間と円環 — アネッテ・フォン・ドロステ＝ヒュルスホフ『教会の一年』
と世俗化の時代 | 西尾 宇広 |
| 2. シュテファン・ゲオルゲ『魂の一年』 | 小野寺 賢一 |
| 3. 解体していく〈一年〉が形づくる理念 — ムージル『特性のない男』におけ
る時間感覚と非完結性の詩学 | 宮下 みなみ |
| 4. 区切りの一年 — バッハマンの短編「三十歳」 | 山本 浩司 |
| 5. 「さあ、この年を記述しなさい」 — ウーヴェ・ヨーンゾン『記念の日々』
における暦と契約 | 金 志成 |

シンポジウム III (10:00~13:00)

C 会場

詩と哲学の饗宴 — 1800 年前後における総合的思考の生成
**Symposion der Poesie und Philosophie. Zur Entwicklung des synthetischen
Denkens um 1800**

司会：胡屋 武志

1. 「宇宙についてのロマン」から「宇宙のポエジー」へ — 1800 年前後における詩学のプロジェクト
武田 利勝
2. "Wollust der Synthesis" — ノヴァーリスにおける「総合」概念の変遷
高橋 優
3. "So wäre alle Religion ihrem Wesen nach poëtisch." — ヘルダーリンの宗教論における「想像力」の役割について
大田 浩司
4. Werden の総合 — フリードリヒ・シュレーゲルの模倣的批評について
胡屋 武志

シンポジウム IV (10:00~13:00)

D 会場

Literaturtheorien in der Anwendung

Moderator : Arne Klawitter

1. Ästhetische Resonanz sino-japanischer Schriftzeichen bei Max Dauthendey
Arne Klawitter
2. Bourdieus Feldtheorie und die gesellschaftlichen Sprachen der Liebe in Musils Roman *Der Mann ohne Eigenschaften*
Thomas Pekar
3. Mediengeschichte als Methode der Komparatistik vorgeführt am Beispiel einiger dadaistischer Texte
Yuji Nawata
4. Zur Analepse in Bashōs *Oku no Hosomichi* mit vergleichendem Blick auf eine Erzählung von Thomas Mann
Robert F. Wittkamp

シンポジウム V (10:00~13:00)

E 会場

情報構造と話し手の状況把握

Informationsstruktur und Sprechereinstellung

司会：森 芳樹

- | | |
|---|-----------------|
| 1. ドイツ語の分裂文における意外性 | 山崎 祐人 |
| 2. 懸念標識の構成的意味論に向けて | 林 則序・森 芳樹 |
| 3. Akkommodationspräferenzen in deutschen Konditionalsätzen | Christian Klink |
| 4. 強勢アクセントをもつドイツ語心態詞 JA と左方領域 — 生成文法による分析 | 伊藤 克将 |
| 5. 語順と音韻構造 | 稲葉 治朗 |

ポスター発表 (10:00 ~13:00)

(ポスターは期間中を通じて掲出されています)

G 会場

ドイツ語教育部会

「大学ドイツ語入試問題検討委員会」展示・発表 (10:00~12:00)

H 会場

閉会の挨拶 (13:05~13:10)

A 会場

室井 禎之

研究発表会期間中、上記のプログラムに加えて、書店・出版社等による書籍展示が行われます。

会場校の事情により、現時点では教室名を確定することができません。会場案内図を当日会場で配布いたします。